発行所
大熊町公民館
電話(大野)65番
発行者
西名　清
編集責任者
吉田農夫雄
印刷所
浪江印刷所
電話58番

本格的な町づくりえ

農業技術者会議発足す

昭和32年7月に東京農大の高松教授等一行が来町して地域振興の診断調査をしてくれたが、あけて33年3月に「農山漁村振興基本計画」をたてその後着々と対策を進めて居るうちに22号台風の突発にあつてもつばらその始末に追いまわされかんじんな振興推進母体としての「大熊町農業技術者会議」の本格的な活動開始まで行かずにしまつた。この程応急的な施策の一段落にともなつて第19号既報のとうり、自主的、綜合的な新らしい町つぐり運動を推しすゝめることになつた

◇技術者会議員つぎのとうり。

⊙役場―助役　志賀秀正。
経済課長―吉田　茂。
土木課長―杉内六郎。
主　任―坂上富美男。
技　師―真柄日出男。

⊙農委―主事―谷津田義重
⊙森林組合―書記―江又実
⊙公民館―主事―吉田農夫雄。
⊙農協―大野農協営農指導員―　石沢貞一。
熊町農協参事代理―
藤崎藤治江。
⊙共済組合―職員―石田胖
⊙農業改良指導所―所長―
松本勝雄。　普及員―
芳賀正喜。　橘内久敬。
佐藤勝(機械化センター)
病虫害予防―小池　博。
生活改善―飯森しげ子。
⊙養蚕農協―技術員―
吉田八百治。
⊙煙草組合―技術員―
常恒市五郎。
⊙食糧事務所―農林技官―
小丸光重。石沢光治。
⊙共済連―獣医―田村忠行
⊙農地事務所―開拓営農技術員―牛来照雄。
⊙双葉農校―教諭
普通作物―大野好果樹―加藤拓男。

移動相談所近く開始予定

7月19日行なわれた第一回の農業技術者会議では主に「新農山漁村建設計画の綜合調査表。」及び「農山漁村振興基本計画書」を中心に現在の情報を出し合つて、町の実態を知ることに重点をおいたが、とりあいず、次の二つを実施することゝなつた。

① 技術者会議の名をもつて富岡青果市場開設促進を具申する。……その理由は。

Ⓐ最早や稲作一点ばりの時代はすぎさろうとしている。畑作との平行主義をとるべきだ。

Ⓑ茨城県は隔駅毎に市であり、常磐地区開発は一大躍進時期になつて来た現在、これ等広大な消費地に青果物を供給するのは双葉郡以外にはない。

Ⓒ必要に直面してすぐ野菜づくりを云々しても栽培技術上迫いつかないからすみやかに畑作指導を行うべきだが、先づ売れる手段をつくらなくては実施困難である。

Ⓓいわゆる、かつぎ屋の人達の手で現在平市の青果市場から郡内に運ばれている青果物は年間一億円程度であつてこの金を郡外に出す事は郡内の発展を阻害する。一面実物をくらべて、双葉郡の青果物は石城ものに較らべて、むしろ優秀である。

② 移動相談所の部落進出を計るべきだ。

今後移動公民館的に役場の各課責任者も含めて、農事移動相談所の部落進出を計らうと云うことに決定。

(　)(　)(　)(

中央執行態勢の横の連絡をつよめよう

現代行政にとつての特長的なことは、すべてが教育面を持つて居ると云うことである。たといば、福祉行政には、未亡人、青少年等の教育が考えられ、保健行政また、モデル食生活部落の指定指導があり、農業改良指導所また、生活指導その他を行い、農協は婦人部をつくると云つた具合。従つて末端では役付きの人が毎日／＼会合に出ると云う事になる。郡各出張所でも深くこの事を憂え、今年に入つてから県教委双葉出張所が中心となり、各系統の主任者会同を毎月開いて各系統による指導の統制と行事の調整にのり出した。来年度からは各公民館が中心となつて、各系統のまち／＼の行事と指導を調整するのがねらいである。

町内でもさきの農業技術者会議で の話し合いがきつかけとなり、今后毎月課長、主任者会同をもつて、調整にのり出すことゝなつた。

(写真は夫沢、長井さんのトマトー畠)

県内研修レポ　若い感覚

館報18号所載のように、去る35年1月に、関本幸一君が郡内からただ一人いらばれて約一ケ月のあいだ静岡、山梨方面に国内研修に出かけたが、今度は去る7月17日から29日まで県内派遣女子研修生として、小田幸子(下1)さんが郡内僅かに二名のうちにえらばれて猪苗代及び平市一帯で、主として食生活や育児等の研修を実施、引きつづき、男子県内派遣研修生として井手義秀君（野2）がこれまた郡内からたゞ一人えらばれて、猪苗代、矢吹方面において農業経営近代化について研修のうえ8月18日帰来した。以下若い世代が、かんじて来た、レポートの一部をのせることゝした。

平凡で非凡な真理

貴女の夫を一生ひきつけるこつは？

小田幸子

アメリカで「貴女の夫を一生ひきつけるこつ。」という題の本が出版されたそうです。どんな事が書いてあるのだろうと、婦女達は先を争つて買いもとめたのでその本は、たちまちベストセラーになりました。

ところがその本の中味は料理の本だつたのです。買つた人々は なあんだ。 と思いましたが、よく考えて見ると真理がふくまれているのに気がつき誰れもインチキだと云つて怒つた人はなかつたということです。

私たちが生きて行く以上、衣、食、住とは切り離す事が出来ません。

特に食は日に三度／＼たべるものですし、どうせ食べるなら美味しく、栄養に富み、安価で出来る料理を勉強したいと思い私は県内女子青年研修のテーマとして「食生活の研究」をえらびました。

研修のあらすじ

私は七月十七日、猪苗代山麓の積慶寮に到着して、班の編成や研修の基礎的な勉強を始めました。ここで私は会津方部の人七人の間にただ一人入つて班をつくりました。

七月十八日―磐梯山麓のハイキングや、レクリエーションに送り翌十九日私達の班は猪苗代をたつて平市の磐城高等女学校に入りました。此の日から二十七日に亘つて私達のテーマにもとづく研修が始まりました。

⊙私達は農村向台所、小都市向台所、中都市向台所のモデルを視察して実生活とのふりあいについて研究しました。

⊙私達はこの期間の朝、昼晩の献立をつくつて、それにもとづいて調理の仕方を研究し、実際の食事として点検しました。

⊙この間に私達はテーブルマナーの講議をきゝ、エチケットとして正餐の食べ方を実習し、蔬菜地帯の部落に出掛けては婦人

会の人達と懇談しました。

⊙つぎに私達は赤ちゃん服や寝具について研修し保健所の保健婦さんと同行しては炭坑社宅を訪問して乳児の育て方の指導を見、日常かゝり易い病気について研究し、妊産婦の食事と母体の健康、赤ちゃんの離乳食や、入浴のさせ方、部屋の温度、乳児検しんなど育児について研修しました。

⊙私達は四倉近くの赤沼部落まで出掛けて、衛生モデル地区を見学しました。

勿論この間に、新舞子海岸や、小名浜、塩屋崎灯台にも行き、湯本や、小名浜の公民館にも立ちより内郷のガスタンクのオートメイション化されているのに驚ろき常磐炭坑の見学もいたしました。

七月二十八日私達の班は平市から猪苗代に帰り各地に分散して居つた県内全研修生と研修結果発表会や、レクリエーションの後、二十九日帰家いたしました。

考える＝計数的、科学的な生活を

＝献立の立て方＝

毎日活動し、労働していく為に必要な栄養のカロリーについては、新聞、雑誌などで、みなさん御存知でしようが実際日常生活の上でどれだけ食べれば必要なカロリーの量をとることが出来るのかが判らずに、満腹になれば必要量に達したような錯覚を起している状態なので米一合ー一四三g を基準としてそれに代る代用食の時はどれ丈け食べればよいかを秤つてみました。

更に私達の家庭では計量の観念が乏しく目分量などで処理しているので計数的、科学的な基礎をつかめないのです。台所には計量カップ。計量スプーン。秤などを備えつけて科学的な料理をつくる事が先決でないでしようか。日常つかつている茶わん、コップ、さじ、などをはかつて代用する事も出来るのです。

（季節と献立て）

◎日常の献立ては、栄養に富み、味が良く、出盛りの物を使うように気をつけること。

◎一年を通じて、気候によつての食欲に応ずるように変化をつけること。

たとえば

△夏は食欲が進まず、消化力も弱まるので、酢のものや、サツパリしたものが喜こばれるが、カロリーが不足がちになるので注意する。

△冬は体のあたゝまる料理がよろこばれ、肉や野菜を一諸に、にこみにした料理など季節によつて献立てをかえる。

△栄養量の外、家庭経済や季節にふさわしいもの、盛りつけ、組合せ、配色などを考えて変化をつける家族の好みに合う様に調理を考え、ある程度の満腹感を考える。

◎調理。

まず手順を考える。無計画に忙しく動きまわるだけでは、時間、労働、燃料が不経済になるばかりでなく美味しい料理をつくることが出来ない。

第一に計画をたてゝ不要になつたものは、その都度仕末し、材料や用具を便利な場所に、いつもきちんと置く、そうすれば労力や時間も節約できて清潔である。

更に台所の位置、食事室との連絡、広さ、構造、調理台、流し、こんろ台、配膳台、戸棚などの設備が仕事の流れに従つて配置され、その大きさ、高さなどがそれを使う人に適当でありたい。

農繁期には、かんずめ、びんずめ、つくだになど貯蔵のきくものを用意して、一寸野菜と一諸にいためるなど手軽に出来又食事様式や食器の簡素化、共同炊事など協同化をはかることも考えて栄養をとることを考えるべきだ。

私が本研修を通じて感じた事は、隋性から抜けだして「考える」生活に転換すること、すなはち、計画的、計数的、科学的な主婦のあり方と云う平凡な真理でした。

企業的農業えの転換

二町歩以上の農家と五反未満とに。

井手義秀

集合地の猪苗代町積慶寮に着いたのは八月三日午后二時、各地域から選ばれ参加した数は二十四名でした。

此の研修会は県社会教育課による、新農村建設の中堅青年育成が主眼なそうです。

県から課長以下面々揃う中で開講式が行なわれ、終つて自巳紹介などがあり、それ〳〵のテーマで班編成に入つた、自分は「水田裏作による家畜の導入」と云うテーマで、第一班、矢吹ケ原経営伝習農場に決る、仲間は六人、皆精悍な人達ばかりだ、第二班は郡山の試験場、三班は荒井の種畜牧場、四班が県立園芸試験場と四つに分散した。

四日には矢吹農協の我々を世話する先生が来て、十日間の細い日程の打合せとテーマの選んだ理由などを話合う、仲間六人とはすつかり友達になり出身地の話に花を咲かせた。

五日、猪苗代を後に目的地の矢吹農場に向う、宿舎は七月完成したばかりの鉄筋コンクリート二階建の福島県青年研修センター、我々には少しもったいなく、すべてが完備されていた、食事の方もすこぶる満足であつた。

この日は農場見学、懇談会など、農場生は百名との事

六日、今日から本格的勉強で、細い日程を書きます

と、五時半起床、洗面、清掃、六時農場生と一諸にラジオ体操、それから七時まで朝仕事、七時十分朝食、八時まで食休み、八時十分から「水田単作地帯の農家経済」と云う講義、講師は児玉場長、これが約二時間十時から討議で十二時まで昼食、午后一時半から生徒と農場に出て実習です。

講義のテーマは変りますが大体こんな時間割になつています、午后希望によつて近くの農家を視察に行く事もありました。

九日、十日の両日は視察で九日には広川野草牧場、白河営林署、矢吹苗畑、前橋管内では一番大規模で育苗畑だけで十八町歩もあるそうです、それに鏡石の果樹地帯の見学でした。

十日には西郷村の農林省種畜牧場、白河パルプの視察、県立公園、南湖の見学等でした。

講義を受けた題を上げてみますと、「家畜の役使用と飼料作物」「畑作を中心とした農業経営」「多角的な農業経営」などです。

全般的にみますとこれからの農業経営と云う事が各先生共に共通した考え方でした、我々が一番強く感じたのは企業的農業でなければならないと云うことです

米一俵生産するのにどれだけの資本と労力がいるかときかれ残念ながら六人の中で誰も判りませんでした。

経済的手段で同じ一俵生産するにしても、出来るだけ安い資本で上げなければならないことです。

現在の農家経済ですが、このまゝでは農家はいつまでたつても浮かばれないとの事ですと云うのは農業だけで一般都会並の生活水準に達するには耕地面積最低二町歩以上なければならないそうです、あと十年たゝずに日本の農業は二町歩以上の農家と五反歩未満の農家になる様な方針で農林省あたりは進む様です。

いまの、日本農業は「曲り角」に立つていると云われている。国民の収入がふいてきたのにともなつて消費者の好みが「量から質」へ移り米をあまり喰べないで牛乳や肉などの畜産物、それに果物などを、うんと食べる傾向になつてきた。最近のヤミ米が値下り、牛乳や豚肉の値上りは、その端的な現われである。

こうした、消費の移り変りのちようど分れ目にさしかゝり、日本農業のあり方を大きく変えようとしている

もともと農業経営の目標は利益を上げることである米作技術は反収を上げるばかりでなく【安い米作り】になつてこそ本当に生きたものとなるわけである。

これからの農業は米作りだけでなく、果樹栽培や畜産の導入を積極的に進めていかなければならない。

とくに畜産振興はもつとも重要だが、これは飼料作物の栽培から始め、農業経営全体の体質改善にもつて行かなければ本物にならない

しかし一がいにそういわれてもおいそれと実現できるものではない、それにはある一定期間の転換期を置き、年次計画に基ずき逐次改善されるのが一番であると思う。

大熊町農業委員会委員

7月15日執行の選挙結果にもとづいて、つぎのようにきまつた。

◎選挙による委員

末永高、関本好男、根本昇、油井斉、高松正雄、小畑一誠、山田幸太郎、米倉清淳、志賀清松、渡部悟。

◎選任委員関係

大野農協理事—石田真宗

熊町農協理事—西村正

学識経験者—坂上信網

末永隆清。吉田収

大熊町農業共済組合理事—横川正。

公民館運営審議会委員各部分担。

総務部—池田徳治。半谷隆教。泉教智。

教養部—勝山力衛。中野栄宗。太田稲尾。

産業部—志賀昇。山辺伊助池田光雄。吉田良治。

厚生、生活改善部—山田つき。菅野みよ。金沢顕。

＝町内野球大会＝

第二回鈴木体育協会長杯争奪町内野球大会は八月十七日十時より大熊町体育協会及公民館共催で絶好の日和に恵まれ強豪八チームの参加を得て盛会裡に行われ結果は次の通りだつた。尚

決勝戦は九回延長戦の末、日没の為改めて挙行される予定。

一回戦

大野中学校球場
役場3×—2スパーク
野上11—0国鉄
双葉農高球場
セントラル5—1熊町
ゼネラル7—0熊

準決勝戦　以下大野体球場
役場7×—2野上
ゼネラル4×—1セントラル

決勝戦
ゼネラル2—2役場
（日没中止再試合）

体育指導委員会議終る

町民体育の劃期的な向上えを目指して八月一三日、35年度前半期活動の反省と後半期活動計画の再検討を目的に町体育指導委員会が公民館で開かれたが、四年後の東京オリンピック大会、明年度相双地区を会場に行われる県陸上競技大会を控いてこの際劃期的な町民体育の向上をはかることゝなつた。

又野球その他前半期に行われた各種試合の実情からみて、観客も含めてのスポーツマンシップに欠け、たゞ勝負のあらそいに走る点がみうけられるので、体育を通じての大衆道徳の向上に乗り出すことゝなつた。

特に九月早々35年度体育祭準備委員会を開催して今年度体育祭を町民体育向上の重大な足掛りにすることゝなつた。

前半期を含めての35年度体育指導行事つぎのとうり。

大熊町体育指導行事一覧表

昭和三十五年度
大熊町体育指導委員会

針方

1 大熊町社会体育指導の基本方針にもとづいて昭和三十五年度指導の重点を次の四点とする
2 老、壮、婦女等一般町民体育の普及をはかる
3 青少年体育を指導組織して健全な体力と気力の養成に努力する
4 部落指導者の育成につとめるスポーツを通じて社会道徳の高揚をはかる

月	旬	行事	摘要	主体
5	上	体育指導委員会	△年度計画をたてる	△各学校、婦、青年会、公民館と連けい
	中	野球大会	△	(主)青年会　(後)公民館
		各部落体育状況調査	△町内青年を主とする	△
6	下		△部落内体育指導適任者間体育実施状況、体育備品、年	△公民館及び体協、各区長、青年会、婦人会と連けいして調査
7	中	野球大会	△△△	(主)体協　(後)公民館
		町内さなぶり大会	役場その他町内職場組織大会	町農協、公民館主催
	下	青年会陸上競技大会	△△△民謡、舞踊の振興	(主)青年会　(後)公民館
		剣道暑中稽古	角力を含む	教公民館　(後)剣道クラブ
8	中	体育指導委員会	△△△	(主)公民館
		鈴木杯争奪野球大会	十日間とし昇段審査を兼ねる	教公民館　(後)公民館
	下	読売杯争奪野球大会	△△△前期反省と後期計画の検討	(主)体協　(後)公民館
			△△△町内一般自由参加	△△△
			高校、中学生を除く	(主)体協　(後)公民館
9	上	部落指導者研修会	△ラジオ体操、バレーボール、厚生体操	△△△
		三友杯争奪秋期少年野球大会	△△△少年野球	(主)体指委　(後)公民館　体協
		体育祭準備委員会	△△△体育祭準備	(主)町公民館　(後)体協
		青年会部落対抗野球	△△△青年会	(主)青年会　(後)公民館
	下	体育指導委員会	△△△体育祭準備	教公民館
		町内弓道大会	△△△町弓会の組織強化	(主)体指委　(後)公民館　弓道連盟
10	上	町長杯部落対抗野球大会	△△△体育祭の一環として	△△△(主)体協　(後)公民館
		町民体育祭	△△△町民の体育祭典	(主)町(公民館)(後)体協区長会、その他
	中	町民バレー大会	△△△体育祭の一環として	(主)体協、公民館　(後)区長会
11	上	青少年体力検定	△△△青少年体力向上	△△△(主)体指委　公民館　(後)青年会
		熊杯争奪野球大会	△△△東西対抗	(主)体協　(後)公民館
	下	町民文化祭	△△△町民文化振興	(主)公民館　(後)体協
		町内一周駅伝競争	△△△農業感謝祭関聯行事	△△△(主)町
12	上	町内一周サイクリング	△△△町内史蹟その他の再検討	△△△(主)体協　(後)公民館　史談会
		体育指導委員会	△△△冬季体育指導の検討	△△△(主)教委召集
	中	室内ゲーム講習会	△△△冬季室内ゲームの正しいやり方を習う	△△△(主)体指委　(後)公民館　体協
1	中	町内射撃大会	△△△射撃関係組織の強化	△△△(主)体指委　(後)公民館
		柔剣道寒稽古	△△△十日間とし、昇段審査を兼ねる	△△△(主)公民館　(後)武聯、体協
	下	柔剣道大会	△△△仝	△△△仝
		アサヒ杯マラソン大会	△△△マラソンの振興	△△△(主)体指委　(後)公民館
2	下	卓球大会	△△△町内自由参加	△△△(主)体指委　(後)公民館
3	下	町内子供会総会（キャンプハイヤー）	△△△子供会の育成	△△△(主)体指委　(後)公民館

備考
（一）あくまで指導員任務の本質である．地域体育の組織化と．指導．調整．協力の線に沿つて計画指導するものとする
（二）体育振興のP・Rと．末端指導組織と指導員の指導技能向上に常に留意するものとする

吉田収指導委員は語る。

来年の県大会には何か一～二種目は大熊町にも、もつて来たいと思う。勿論剣道や、弓道、射撃などは大熊町の、選手が優勝出来ると考えている。……

大熊町野球審判クラブ誕生!!

8月20日、町内野球関係者一〇名が役場会議室に集合、話し合いの結果、鈴木一雄氏を会長に「大熊町野球審判クラブ創立準備会」を開催した。

九月に創立総会を開く予定

＝鈴木会長のことば＝

今迄正確な審判規定にもよらないで、好きな者が集まつて競技するといつたありさまを呈し、選手も応援団や、一般観客にも団体規律が充分守られて居つたといゝない点が見受けられるので、話し合つた結果、試合ルールを確立して、団体規律を守る立派なものにしたいというのがねらいです

郡体育関係役員町出身者次の通り

◎郡体育指導委員連絡協議会理事　鈴木一雄
◎郡体育協会
副会長　鈴木一雄、勝山力衛
理事　吉田収、石井宏
常任理事　吉田農夫雄
◎郡体協
剣道部長　谷津田義重。
相撲部副部長　馬淵辰衛

お知らせ

占領軍の行為により生命または身体を害された者に対する見舞金の支給について

調達庁では昨年度より占領期間（昭和二〇年九月二日より二七年四月二十七日まで）において進駐軍関係事故により、死亡または傷害を受けた被害者の実態調査を行つたが、これら被害者のうち、国がかつて都道府県を通じて支給した見舞金を一度も受けなかつた人及び一部支給を受けなかつた人（療養見舞金は支給されたが障害見舞金を受けなかつた人、その他規準の改正により見舞金の追支給を受けなかつた人）に今年度において見舞金を支給することになりましたので該当の方は申し出て下さい。

「申し出の方法」

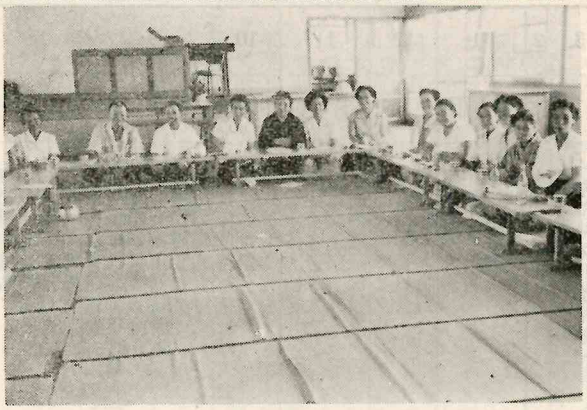
ハガキに事故年月日、被害者、事故の概要等を記載し仙台市北二番丁五二、仙台調達局宛申込み下さい

未亡人会総会

—（あざみ会）—

8月7日（日曜日）公民館で総会を開いた。

参加者、会長横山翠子さん外三〇名。—厚生関係の門題や、今後は年に数回集まつて、お互いに親ぼくを深め、はげましあつて、厳しい人生を生き抜こうと話し合つたのち、なごやかなレクリエーションを実施して散会した。



(写真はあざみ会の状況)

この日、陪席した志賀秀正助役は祝辞のなかで…

「町としても皆さんの幸福な人生を築きあげる為に、出来る丈けの事をして、町内に一陽のあたらない坂道—をなくしたい…と述べ一同に力強い感銘をあたえた。

児童健全育成研修会開く。

〃青少年を守れ〃

民族の明日をになう若こそ青少年であるのに非行少年の問題が新聞にでない日は一日もない。

つい8月18日の朝日新聞でも去る一月から六月までの県下各署で補導した非行少年の総数は七千三百四十八人で昨年の同期より千八百二人(三二・五%)もふえその特徴は高校生の集団婦女暴行事件が多くなつたことゝ全国的に非行少年の年齢低下が問題になつて居り県でも十八才未満の犯罪が激増する傾向を示しているという。

青少年指導といわれて来たが現在では青年指導と切り離して少年指導に力を入れる段階に来ており、学校教育に一任するという、なげやりな立場ですごせない状況になつてた。

昭和35年度県の社会教育の努力目標でも、少年、青年婦人団体等の指導者養成、P、T、A、における成人教育活動の充実。15才から20才までの勤労青少年の教育子供会等の育成が大きくとりあげられて来たが、町社会教育面に於いても七月、飯坂で開催された、「子供会指導者講習会」に、町内各校及び各P、T、A、と連絡協同のうい、常盤利昭さん、田中ツネ子さんに受講を願い、ついで、猪苗代湖畔で開催された。子供会及び母親等の集団指導者研修会には、町厚生課と協力して横山翠子さんに出席していただいて、リーダーの養成に着手したが、八月九日町主催の「児童健全育成研修会」を公民館に於いて開催して指導活動を開始した研修会には町長始め関係者約五〇名、双葉町より公民館及び民生委員関係者十数名参会、富岡福祉事務所の多田福祉司、及び、県V・I・S副会長の小山昭栄先生を中心に、終日熱心な研修を実施した。

8月31日

大熊町綜合中央婦人学級開講

8月10日、20日の再度にわたつて、開設準備委員会を開いて慎重な検討を実施して来たが、20日午後には県教育委員会双葉出張所より菊地憲一先生を招いて両婦人会の部落役員も参集のうい、助言者群の研修を実施、31日午后一時から開講式を行つた。

若妻学級生—48名。一般学級生53名。

次回は若妻学級、9月10日午后一時。一般学級8日午后一時から。

(細部は第21号掲載)

同学級は若妻学級(仮称)と一般学級(仮称)とに分かれ、定員はいづれも五〇名とし、各部落から各々二名宛計四名程度の定員を以て編成し、研修は概ね月一回として来年3月まで8回三十時間ほど開設の上、卒業の予定。

波の音 続II

蟬の声

吉田農夫雄

ツク〳〵ボウシの声が、なにかいらだゝしく、わびしい感傷をそゝります。

暑い陽ざしのなかにも初秋の大気は、いなみようもありません。秋だなあ!もくねんと考えに耽つていた赤坂貞助(土田衡平)が、ふとつぶやきました。

思い〳〵に何かを考え込んでいたのでしよう、とたんに一同ハツトした様に視線をあげました。心の奥をのぞかれた様な落ちつかないふんいきです。

おりから山田甚五郎が静かに入つて来て、しきいぎわに指をつきました。

浪士の松永宅軟禁以来ずうつと、つめきつて万事のさし引をして居つたのです。

「こいつとう様に申し上げます。只今熊駅から使者が参りまして、ー各々方にお尋ねの儀があつて先日代官(標葉郡、百石以下の家中の職)両人がみな様方と御面接の上、くわしくお話しをうけたまわり取調べました次第ですが、昨日郷目附つきましては、たゞ今から皆様方を熊駅に御案内するようにとの事ですので急いで御支度をお願いします」。

…一座しんとして静かなひとゝきが流れました。

やがて四本松豊之助が一同を代表して「心得申した。おともつかまつりましよう。」

「南標郡警務掛」を原町の御宿所(郡代)につかわして、申し上げましたところ皆様方の御尽忠の程まことに奇特の至りと思うが代官衆よりお聞きもらしの事もあるので直接お聞きいたしたいとの事で郡代衆が昨夜熊駅まで御出張になられました。ー

とあいさつしました。

あたりに充ちた静寂のうちに、蟬のこえと、いそうつ波の音だけが天地一杯を支配して居るようです。

はんとき程ののち、依然松永宅にのこる赤坂新宮の両名に別れの言葉を交した六名は、静かに立ち上りました。

ーこれがお互いに永遠の別れなのだ、庭におり立つたしんかん、ふりかえつて交わし合つた八名の目はうなづき合つて居りました。ー

渡辺市治の最后。

西名マサさんはまだ十二〜三才。お下げ髪の少女でした。

天狗(つくば山にこもつた浪士達を当時天狗党と云つた。)が水神山の方から捕えられて来た。というので物珍らしさと、恐ろしいもの見たさで家を飛び出してつい向いの青田富金松(現熊町農協)さんの庭に入り取り囲む人がきの間からこわ〳〵とのぞきました。

なんとした事だらう、恐ろしい天狗は庭前に引きすえられた白哲の青年武士だつたのです。

両刀はもう取り上げられて居りましたが、縄目のいましめはまだ受けて居りませんでした。

渡辺市治というお方だそうな。…ささやく声が耳に入りました。若い浪士はチツトうつむいていましたが見張の番人の目をかすめて、かくし持つた短刀で自分のノド笛を突きました。

アツ!驚ろいた番人が十手で浪士の右腕をたゝきました。痛さに耐えかねたのでしよう短刀は浪士の手を離れてポロリと地面に落ちました。

ほんの一瞬の間の出来事にマサさんは声もなく立ちすくみました。とたんにあたりは上を下えの騒ぎになりましたが郡代の指図でしよう。やがて浪士は青田さんの座敷に運びこまれて手当を受けました。でもよほどの深傷だつたのでしよう。

苦しみもだく声が数日のあいだ道をへだてたマサさんの家まで聞えてきました。

六日ほどたつて、今日はウナリ声が聞こえないに　と思つたら渡辺という浪士さんは、介抱に当つた青田さん宅に深くお礼をのべて息を引きとつたという事が判りました。

元治元年九月二十日ー赤坂新宮の両名も亦松永宅で縛につきました。

(写真は遍照寺にのこる渡辺市治の墓碑)

★☆★☆★☆★